



SCI Agritech @ 研修実施完了編

Vol.31

(2025年 12月発行)

NEWSLETTER

2025年度青年研修 「農業・農村開発（フードバリューチェーン）」 に係る研修事業が完了！



アルゼンチン ボツワナ カメルーン 中央アフリカ キューバ リベリア マリ モーリタニア モザンビーク ナイジェリア

次世代を担う若手行政官の能力強化を目的に、2025年8月18日から9月5日までの3週間、JICA筑波にて、中南米及びアフリカの10か国15名を対象とした「農業・農村開発(フードバリューチェーン)」に係る研修を実施しました。

多くの開発途上国では、農業が主要な雇用・収入源である一方、生産から流通・販売までのフードバリューチェーン(FVC)が十分に機能していません。特に集出荷・販売のための組織化の遅れや加工機能の脆弱性、関係者間の市場情報共有の不足により、価格変動リスクの増大やフードロスの発生、農村地域における経済機会の喪失等の課題が生じています。

このような課題に対応するためには、地域資源や特産品を活用した付加価値の創出、物流の改善、販路開拓への取り組みなど、生産と市場を持続的につなぐための制度的かつ政策的な支援が不可欠です。

本研修は、日本における先進的な取り組みや政策的枠組みを学び、FVCの構造と機能に対する総合的な理解を深め、各国の政策立案や制度整備に活かすことを目的として実施しました。

研修の冒頭では、研修員が事前課題として作成した自国のFVC課題や政策をまとめたインセプションレポートの発表を行い、各国の現状と課題を共有しました。

研修は、弊社及び外部講師による講義、演習、視察を組み合わせ、日本のFVCを体系的に学ぶカリキュラムとして構成しました。講義では、日本農業の歴史の変遷や国・県レベルの農業政策、付加価値創出につながる六次産業化の取り組みなどについて学びました。視察では、六次産業化に取り組む農業法人を訪問してその実践例を学んだほか、大田市場での市場内流通、生協や道の駅での市場外流通についても現場を通じて理解を深めました。さらに、講義や視察内容の振り返りやディスカッションを行い、研修員同士が知見を共有しながら多角的にFVC強化に向けた政策を議論しました。

研修の最終段階では、研修で得た知見を基に帰国後の活動を整理し、アクションプランとして発表しました。研修員からは、「FVC全体を体系的に学ぶことができた」との前向きな声が多く寄せられました。

今後、研修員が日本で得た知識と経験を各国で実践することで、現地のFVC改善や持続的な発展に貢献するとともに、日本への信頼醸成にもつながることが期待されています。



インセプションレポートの発表



講義(茨城県による農業施策)



視察(JA谷田部産直部会)



視察(大田市場)



視察(なめがたファーマーズヴィレッジ)



討議(FVC関係者と意見交換)



アクションプランの発表



閉講式